

音楽教育とハイテク

Music Education and High-technology

Sの教育 (1)

鈴木 寛 (兵庫教育大学教授)

Moog 復活

この5月の連休は例年通り、友人夫婦と家内と愛犬（4人と一匹の年齢の合計は257歳！）という熟年組で奈良県の十津川村にある日本一長い吊り橋にあるキャンプ場で楽しくキャンプをしてきました。のんびりしながらも一日中聞こえる吊り橋の案内の放送にうんざりしてしまい、何と日本人は音に鈍感なんだろうと思っていると、5、6台の車でやってきたグループが「テケテン・テケテン」とラジカセの音量を最大にして騒いでいました。さすがに夜になると騒ぎ過ぎて疲れたのか静かにはなりませんが観光地の騒音源は「音楽」なんですよ。

さて連休明けは前から機会を狙っていた ARTURIA 社製の「Moog Modular V」の最新バージョンで遊んでいました。日本ではアイデックス音楽総研発売の「モーグ・モジュラーV」<http://www.idecs.co.jp/musicsoftware/moogmodular/index.php>で案内されていますが、1975年に私が1ドルが360円の頃1万ドルで購入した以上の機能を持つ物が税込みで29400円で入手できるのです。

いわゆるソフトウェア・シンセサイザーなんですが、手持ちのMIDIハードウェアとセットすればもはやあの巨大なシステムが画面上で再現されている違和感はありません。



そもそも、30年前に私が購入した代物は、3つのコンポーネントとキーボードからなるMoogVというアナログシンセで、その巨大な図体からは単音しか出

せないものでした。おまけに電源を入れてからピッチやその他が安定するまで約3時間ほどかかり、一度あるパッチングを完成させても記憶させておくことができないため同じ音をもう一度創るには頭の中にある記憶に頼らざるを得ないというものでした。芯のある豊かなサウンドに定評のあったMoogでしたが、ロック・ミュージシャンにもてはやされたMiniMoog以外はあまり普及せず、私も数年前にもう使うことは無いだろうと手放してしまいました。その最大の理由はMIDI音源のGM化とテープ録音の多重化の限界のためシーケンシャル・ソフトによるステップ入力が通常の音楽制作スタイルとなってしまい、MIDIが使えない「手弾き・生録音」という古い手間のかかるMoogは使わなくなったからです。

一方ではMoogにしかできなかったRing Modulationや複数のオシレーターによる音創り、フィルターの発振を利用した音やレゾナンスの制御など数え上げればきりが無いほどの音作りの可能性を放棄してしまったのです。

ここ数年は学生にDTM環境を使った指導をしています。いくらバンク数が増えたと言っても所詮は有限のMIDI音源で、個性豊かな音楽表現などできるはずがないと考えていました。だからといってあの巨大な怪物を何十台も買ってもしようがありません。結局MIDIデータだけをどんなに緻密に設計しても「音」の部分で妥協をしていますのでソバ粉でパンを真似て作るような後ろめたさが残ったわけです。

今回から展開するモーグ・モジュラーVを使った教育は義務教育には向きませんが、高等教育や専門教育を受ける人たちをターゲットに連載します。MAXというプログラム言語で音源やフィルターなどのモジュールをバーチャルに画面上で構成してあたかもMoogのモジュラーシンセをコンピュータ上で実現するかの研究は過去にもたびたびありました。しかし、あの無機質なフローチャートのような画面では無機質な音しか作れないように思ったものです。

ところが、2003年に発売開始された「Moog Modular V」がオリジナルのMoogには無かった機能（例えばMIDI対応複音化やエンベロープフォロアーやフォルマントユニット等）をひっさげてV.2.0で最新のMacOSXやPCに対応して3万円を切ったわけだから当然興味が湧いてきたのです。特にMIDI対応となった御陰で今までMOOGのキーボードでは無理だったVelocityもコントロール信号として利用できるようになっただけでなく、すべての音色をセーブできるので、MIDI音色を切り替えるように次々と異なるパッチングを呼び出したり、画面に複数のモーグ・モジュラーVを立ち上げてそれぞれに異なるポートやチャンネルを割り当てることで大オーケストラを演奏できるようになったのです。しかも木目のキャビネットが目に優しいという視覚的要素もあります。

シンセサイザーの原理にはハモンドオルガンのような①合成方式、Moogのような②減算方式、FM音源やバーチャル音源のような③演算方式、GMの原料である④パルスコード方式が基本的にはあるわけですが、アナログ音源とフィルターに特色のある電圧制御式シンセがMIDI制御とハイブリットになったものとして新しいコントローラを持つ伝統的シンセと考えてください。